

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：横浜市左近山保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：篠崎 智恵	定員（利用人数）：120 名	
所在地：〒241-0831 横浜市旭区左近山1997		
TEL：045-351-1907	ホームページ：	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1969年06月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市		
職員数	常勤職員：43 名 非常勤職員：8 名	
専門職員	（専門職の名称）： 名	
	保育士：47名	事務：1名
	看護師：2名	軽作業：1名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：厨房
	居室：1歳児室	設備：遊戯室
	居室：2歳児室	設備：事務室
	居室：3歳児室	設備：更衣室
	居室：4歳児室	設備：予備室
	居室：5歳児室	設備：乳児トイレ
	居室：産休明け児保育室	設備：トイレ
	設備：テラス	
	設備：園庭	

③理念・基本方針

<理念>

- 生きる力を育てるために、子どもの思いとその子らしさを大切にします。
- 家族の子育てを支えます。

<保育方針>

1. 一人一人の思いに寄り添い、主体的な活動を育む保育
2. 一人一人の育ちに合わせた適切な援助を行う中で、基本的な生活習慣が身に付く保育
3. 家庭や地域と連携し、子どもの育ちや学びの連続性を大切にする保育

<園目標>

1. 心身ともにすこやかな子
2. 思いやりの気持ちを持てる子
3. 自分を表現できる子

＜保育姿勢＞

1. 気持ちを受け止めてもらい、安心して過ごせるようにします。
2. 健康に過ごすための生活習慣の基礎が身につくようにします。
3. 一人一人が違うことを認め合えるようにします。
4. 自分、仲間、自然を大切にする心を育てます。
5. 思っていること、感じたことを、言葉や行動で表すことができるようにします。

④施設・事業所の特徴的な取組

＜左近山保育園の特長的な取組＞ ※基本情報Ⅰー3の記載事項

- 横浜市、旭区開催の外部研修を多くの職員が受講している。
- 園内研修にて保育ドキュメンテーション、園内公開保育を行い、他職員の保育を客観的に見る機会を持つなど、学びを深めている。
- カリキュラムだけでなく、個別のケース会議等も開催し、配慮が必要な子への対応や保育の困り感を話し合い、共有している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年05月26日（契約日） ～ 2024年02月06日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

⑥総評

【左近山保育園の概要】

●左近山保育園は、横浜市が運営する公立保育園です。開園から54年目を迎えた歴史ある保育園であり、過去2園が統合して現園となっています。園周辺は、尾根にまたがる広大な敷地に、ゆったりと住環境が広がる左近山団地（UR賃貸住宅）、横浜市立左近山小学校が隣接し、団地には自然豊かな大小の広場や多数の公園が備わり、敷地に延びる遊歩道では四季の景色の移り変わりが感じられる環境があります。また、団地敷地内のショッピングセンター、商店街の活用や、周辺には畑も多く充実している等、恵まれた環境の中で戸外活動・行事等が有意義に行われています。

●左近山保育園は、左近山団地の敷地内にあり、自然の木々に囲まれ、南向きの広い園庭を有し、鉄筋2階建ての園舎は採光がとても良く、子どもたちが伸び伸びと気持ちよく過ごせる環境にあります。現在、旭区の取りまとめで近隣公立保育園の育児支援センター園となり、地域育児支援に向けた取組のリーダー的役割を任せています。また、今年度から医療的ケア児サポート保育園として受入体制を整備し支援の幅を充実させています。他、産休明け保育、一時保育、交流保育等の各事業及び横浜市保育資源ネットワーク構築事業等に取組み、積極的に子育て支援に尽力しています。

●左近山保育園では令和4年、コロナ禍で体を動かす機会が少なくなっている打開策として、子どもが家族と楽しく体を動かせる・健康づくりに役立てられる体操として、区の事業として旭区の公立3園の保育士と当園の保育士が「あさひくん体操」を制作し旭区長賞を受賞する等、職員の意識の高さと前向きさが感じられる保育園です。「あさひくん体操」は、旭区オリジナル体操「あさひくん体操 “あさひくんとア・ソ・ボ！”」として動画が配信されています。

◇特長や今後期待される点

1. 【保育の質向上への取組について】

左近山保育園は、近隣公立保育園の中核的な役割を担い、研修、ケーススタディ等を積

極的に取組み、計画的な研鑽に努めています。また、保育以外にも公務員としての研修等により1個人のポテンシャルが向上され総合的に保育の質の向上につながっています。

2. 【子どもの発信力について】

就学に向けて、子どもの発信する力を養うために時間をかけて指導しています。特に、ヘルプの発信は重要と考えています。また、「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」を掲示して言われて嬉しい言葉、嫌な言葉を具体化して啓蒙し、発信する内容にも工夫しています。

3. 【設備について】

団地内の立地で道路整備されているため駐車場確保ができていません。利用者（保護者）アンケートからもニーズは高く、改善される必要があるため横浜市、旭区と検討されることを期待します。また、医療的ケア児サポート事業で設備面に不十分な面が否めない点については段階的に改善を試みていかれることを期待しています。

4. 【労務改善について】

有給休暇の取得率が若干低いこと、また取得日数のバラツキがあることが気になります。職員各人の背景及び環境は異なりますが、可能な限り公平に取得できる体制と慣習に取り組まれることを期待しています。また、雑務が多くなっている傾向がありますので、保育業務に専念できる体制づくりに取り組まれることを期待いたします。このことが安全・安心、そして業務軽減につながり、保育の質向上にも作用されることでワークライフバランスの充実も期待されます。

5. 【保育の質向上に向けて】

保育の質向上に研修は大事な要素の一つではありますが、職員体制が厳しい現状において研修の参加が困難な傾向があります。また、園内研修として、旭区や局の研修に参加し得た知識・情報は園内で報告及び共有を図る他、多種多様な研修、受講方法に取組み、さらなる保育の質向上に向けて、リーダー園としても事例となるよう期待しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 横浜市左近山保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

職員数が多く、保育士職以外の職種の職員も多く勤務する中、自園についての振り返りを細かく行えたことはとても貴重でした。それぞれの視点からの意見を共有することで、自園の強みだけでなく改善点も確認できました。

一つ一つの項目に対して丁寧な聞き取りを行ってもらい、質問に答えていくことで自園が抱える課題を明確化することにつながりました。評価についての説明では、さらに上を目指せるのではないかと助言をいただき、職員のモチベーションにもつながりました。

今回の受審を一つのステップとして捉え、保育の質向上のため職員一同で研鑽していきたいと思います。

《評価後取組んだ事として》

1. フォロー会議等での伝達事項等の周知を徹底しています。
2. 評価内容を全職員で共有し、今年度の自己評価に生かします。
3. 保護者アンケートより改善点について検討します。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり